10

# 福祉施設における HIV 陽性者の受け入れ課題と対策

研究分担者：山内　哲也（社会福祉法人武蔵野会リアン文京 総合施設長）
研究協力者：三澤　朋洋（同法人第２大島恵の園 課長）
須永　　正（同法人千代田区障害者福祉センター 所長）
萬谷　高文（社会福祉法人日輪ラスター 所長）

## 研究要旨

研究１では、福祉施設の受入れマニュアルを用いた研修会により、HIV/AIDS 啓発研修を行った。福祉施設における HIV 陽性者の受入れに関して、福祉施設は受入れ事例が身近になく、過去のマスコミ報道による「怖い病気」のイメージが先行して、情報不足と相まって HIV/AIDS について無関心な状況にある。そのため、福祉施設向けに H23 年度に作成した福祉施設職員向けのマニュアル「HIV/AIDS の正しい知識 - 知ることからはじめよう」(A4 版 48 頁 ) をテキストに、福祉施設職員向けに啓発研修を全国各地で行った。

研究２は、マニュアル「HIV/AIDS の正しい知識 - 知ることからはじめよう」の改訂作業を行った。新たに制度面や人権関連の記事を多くした。

研究３は、地域包括支援センターの HIV 陽性者の受入れ課題と対策について検討した。

HIV 陽性者における地域ケアの一翼を担う地域包括支援センターと福祉施設の連携のあり方についてインタビュー調査をもとに地域での受け入れ態勢の素地を作るべく取り組みを行った。

## 研究 1

### 福祉施設の受入れマニュアルによる研修会

### 研究目的

慢性疾患化した長期療養者が漸増している中、地域で自立困難な HIV 陽性者の受皿として福祉施設の果たす役割は大きい。

しかし、現状では福祉施設の HIV 陽性者の受入姿勢は残念ながらあまり積極的ではない。

この背景には、HIV/AIDS について基本的知識不足に由来する不安感並びに受入れ基準や前例がないため受入れを躊躇する傾向が先行研究から示唆されている。

これらの課題の対策として、福祉施設向けマニュアルや研修プログラムの開発の必要性などが示唆されたことから、平成 23 年度に作成した冊子「HIV/AIDS の正しい知識 - 知ることからはじめよう -」を教材に福祉施設従事者向けの啓発研修を実施し、HIV 陽性者の受入促進を企図した。

### 研究方法

平成 23 年度の分担研究を基に作成した冊子「HIV/AIDS の正しい知識 - 知ることからはじめよう -」を全国の高齢者、障害者福祉施設に配布し、研修希望の福祉施設や関係団体で冊子を教材に、福祉施設職員対象の HIV/AIDS 啓発研修を行った。

研修後に、研修の効果並びに今後の HIV 陽性者受入れの参考とするために、受講者に研修後のアンケート調査を実施した。

中でも当事者の語り研修は福祉従事者にリアリティ感を高めるのに効果が高いため、東京都、広島県、群馬県等で積極的に研修に参加してもらった。

**( 倫理面への配慮 )**

アンケートの趣旨説明を行い、自由意思による回答と匿名化についてなどを説明し、倫理面について配慮した。

テキストに使用した冊子

## 研究結果

福祉施設職員対象にHIV/AIDSの啓発研修を計画し、全8回の啓発研修会が実施された。

開催地は、群馬県、東京都、広島県の各地で福祉施設や関係団体を会場にして、計399人が受講した(表1)。

アンケートを研修後に配布し、これを回収して分析した。各研修は地域事情によって研修時間、カリキュラムやアンケートの調査項目に若干の違いがある。共通する項目を集計したものが表2である。

受講者399人中、回答者は399人(100％)であり、回答者の内訳は、高齢者施設等の介護職232人(60.5％)、看護師86人(23％)、高齢者・障害者施設等の支援員・相談員36人(8％)、代表・施設長21人(3％)、ヘルパー2人(0.5％)、介護・看護グループ長10人(3.0％)、その他（医師、保健師、行政職）11人(13.8％)であった。

HIV陽性者の受入れ経験(過去10年間)は、399人中321人(80.7％)は経験がなく、28人(6.9％)が経験ありとした。

研修内容の満足度は「大変参考になった」が271人(68％),「参考になった」が123人(31％)であった。

個人の受講者の受入れ意向についての質問では、「他の利用者と同様に受け入れたい」が211人(52.8％),「病状が安定していれば受け入れても良いと思う」が123人(30.8％),「不安はあるが受け入れることはできる」が58人(14.5％)と程度の差はあるが肯定的な回答は全体の98.2％であった。肯定的な回答の割合は昨年と同じ9割以上という高い数値を維持している。要因の一つとして継続研修の積み重ねが受入れに向けた意識を高めていると推定される。

一方で、「不安が強くすぐ受入れるのは難しい」6人(1.5％),「受入れはしたくない」1人(0.25％)とい消極的・否定的回答が約2％であった。昨年度の回答率は2.5％だったので、研修を受講しても尚不安が拭えない受講者が一定の割合存在するということが分かる。

次いで、個人ではなく所属する事業所での受入れ意向を尋ねる質問では、「事業所で受入れ可能」は115人(28.8％),「病状が安定していれば受入れは可能」は135人(33.8％),「準備が整えば受入れ可能」105

表1　平成29年度　HIV/エイズ研修　福祉施設従事者対象

| 研修テーマ　日時 | 会場　住所 | 参加者 |
|---|---|---|
| HIV/エイズ啓発研修<br>平成29年5月25日(木) 15:00～17:30 | 社会福祉法人恵林<br>群馬県高崎市767 社福法人ほたか会 | 32 |
| HIV／AIDSの正しい知識<br>平成27年5月26日(金) 18:00～20:00 | 株)メディカルケアサービス<br>東京都大田区大森南3-10-4 | 54 |
| HIV陽性者の受け入れ研修<br>平成27年6月27日(火) 10:00～12:00 | 社会福祉法人民善会<br>群馬県豊岡市一宮1652-4 | 87 |
| HIV/エイズ啓発研修<br>平成29年5月25日(木) 15:00～17:30 | 社会福祉法人ほたか会<br>介護研修センター<br>群馬県前橋市総社町総社1675-7 | 37 |
| 高齢者等介護施設のためのHIV/エイズ研修会<br>平成27年9月8日(金)14:00～17:00 | エル大阪<br>大阪府大阪市中央区北浜東3-14 | 78 |
| 高齢者施設のための感染症対策研修会<br>平成27年12月8日(水)<br>13:30～16:30 | 広島県健康福祉センター<br>広島県広島市南区皆実町1-6-29 | 46 |
| 社会福祉施設HIV/エイズ啓発研修<br>平成28年2月6日(土) 13:30～16:30 | 高崎市総合福祉センター<br>群馬県高崎市末広町115-1 | 26 |
| 社会福祉従事者の感染症対策研修会<br>平成30年2月22日(木) 13:00～17:00 | 文京総合福祉センター<br>東京都文京区小日向2-16-15 | 39 |
| | | 399 |

人 (26.3％ ),「受入れは難しい」28 人 (7％ ),「無回答」3 人 (0.75％ ), 無効回答が 13 人 (3.2％ ) という結果であった。

昨年度との比較においては無回答がやや多かった。個人的な受入れ意向は徐々に肯定的受入れ回答に移行しているが、事業所としての受入が難しいと答える回答の割合は、横ばいである。

この研修は受講者の 2 割が福祉事業所に従事する看護師であるが、この研修で正しい知識を身につけてもなお看護師自身が現場のスタッフに正しい知識を伝えられるか不安視する受講者も複数存在する。

## 考 察

先行研究において、福祉施設職員の多くは曖昧な HIV/AIDS の知識しかなく、過去のマスコミ報道によって形成された「怖い病気」というマイナスイメージを強く抱いていることや HIV/AIDS の問題は、医療機関が対応するものであり、福祉施設には関係がない、という認識傾向がある。

特に、HIV 陽性者を実際に受入れている福祉施設の情報が個人のプライバシーなどの関係で公開されにくいため、受入れ基準や前例のない中、行政や医療機関からの「HIV 陽性者を受入れてほしい」との要請は、唐突に要請されるように感じられるため、受入れに関して消極的あるいは防衛的になる傾向が強いことが推測される。

本冊子「HIV/AIDS の正しい知識 - 知ることからはじめよう -」が全国配布され、配布文書の応募を見て募集する者も多く、また、平成 25 年 3 月に改訂された厚生労働省の「高齢者介護施設における感染対策マニュアル（改訂版）」や本研修の継続実施による影響もあって、実数は少ないものの受入れに向けて、環境整備を始める施設も出てきており、良い感触を得ている。

今年度は本研修を契機に、東京都で 2 件、群馬・埼玉で各 1 件の HIV 陽性者の受入れが報告され、本研修以降、医療機関が研修アンケートで希望した事業所に医師の出前研修等を行うなどの施設との連携の広がりも見られている。

## 結 論

来年度も引き続き、福祉施設職員対象の HIV/AIDS の啓発研修会を開催していく予定である。特に、社会福祉側の視点から HIV 陽性者の受入れ問題を捉えるために、障害者差別や人権擁護の視点から、ソーシャルワーカーに働きかけていく予定である。

## 研究２

### マニュアルの改訂

#### 研究目的

冊子「HIV/AIDS の正しい知識 - 知ることからはじめよう -」は、HIV/AIDS に関してあまり知識がない福祉従事者にわかりやすい内容であるとの評価を得てきた。

一方で、高齢福祉分野のケアマネージャーや障害福祉分野の相談支援員等から制度面や心理面での対応についての情報がほしいという要望があがったため、冊子の改定に取り組む。

#### 研究方法

項目を整理し、改定作業を行った。

**( 倫理面への配慮 )**

研究の趣旨を説明し、自由意思による参加とした。回答については匿名化し、倫理面での配慮をした。

#### 研究結果

2018 年 6 月に改訂版に刷新する予定。

#### 考 察

当初、「HIV/AIDS の正しい知識 - 知ることからはじめよう -」の読者を直接介護・支援に携わる者対象として想定してきたが、福祉施設内の様々な職種が参照にしている実態が明らかになった。

改訂版のマニュアルで、さらに研修を効果的に行っていく予定である。

## 研究３

### 地域包括支援センターの HIV 陽性者の受入れ課題と対策

#### 研究目的

HIV 陽性者における地域ケアの一翼を担うと推定される地域包括支援センターと福祉施設の連携のあり方について検討した。

#### 研究方法

大阪市旭区にある地域包括支援センターをフィー

ルドに地域における HIV 陽性者の受入れ課題と対策について、研修を行った。

## 結 果

大阪市旭区東部ブロックの包括支援センターから研究参加者を募り、ワーキンググループを結成し、地域における HIV/AIDS を含む感染症患者の受入れ促進を図るための地域活動を推進することを目的にアクションリサーチを実施した。

大阪市旭区の東部ブロックを対象に、その地域の地域包括支援センターと大阪市保健所と連携して HIV/AIDS の地域における意識啓発について検討を加えた。

## 結 論

大阪市旭区内の高齢者介護事業所向けの啓発研修が一巡し、一定の役割を果たすことができた。HIV 陽性者の実際の受け入れ時には、今回の研究に協力してくれた包括支援センターのスタッフ、大阪市保健所等の複数機関の連携が可能になるかと思われる。

## 健康危険情報

該当なし

## 知的所有権の出願・取得状況（予定を含む）

該当なし

## 研究発表

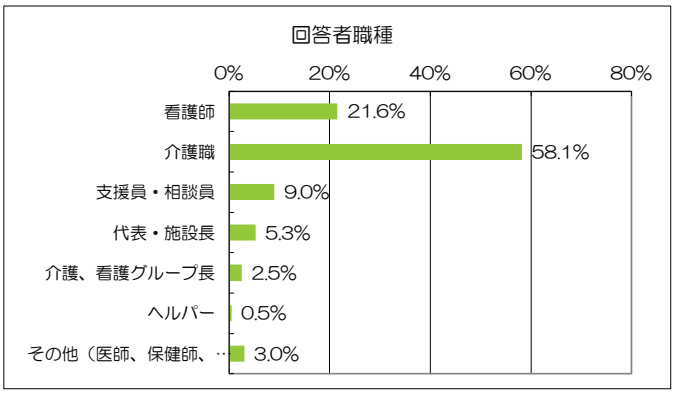
なし

# HIV/エイズ啓発研修　参加者年間アンケート結果

※無効回答扱い
単一選択設問に複数回答の場合

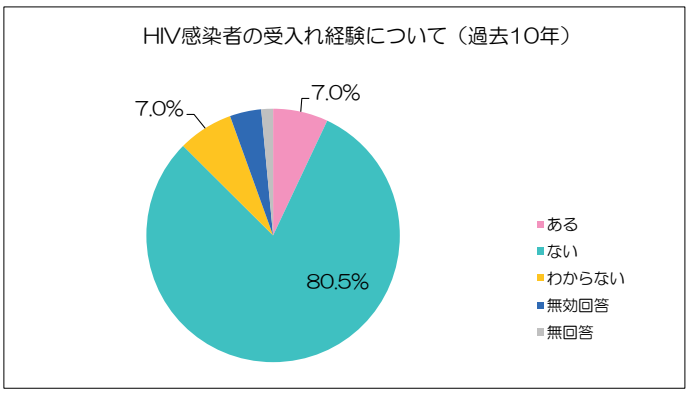
## 回答者職種

| | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 看護師 | 86 | 21.6% |
| 介護職 | 232 | 58.1% |
| 支援員・相談員 | 36 | 9.0% |
| 代表・施設長 | 21 | 5.3% |
| 介護、看護グループ長 | 10 | 2.5% |
| ヘルパー | 2 | 0.5% |
| その他（医師、保健師、行政） | 12 | 3.0% |
| 計 | 399 | 100.0% |



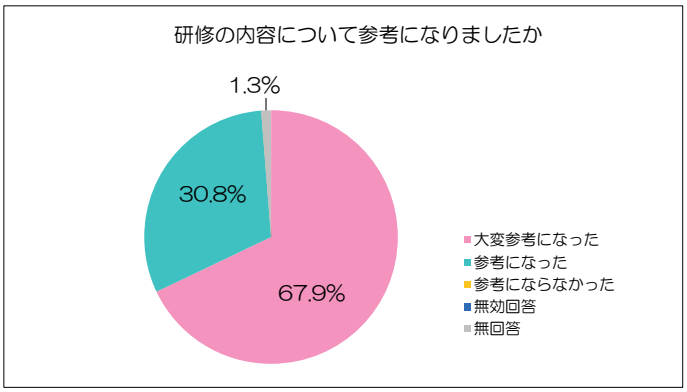

## Q1. HIV感染者の受入れ経験について（過去10年）

| | 回答数 | % |
|---|---|---|
| ある | 28 | 7.0% |
| ない | 321 | 80.5% |
| わからない | 28 | 7.0% |
| 無効回答 | 16 | 4.0% |
| 無回答 | 6 | 1.5% |
| 計 | 399 | 100.0% |



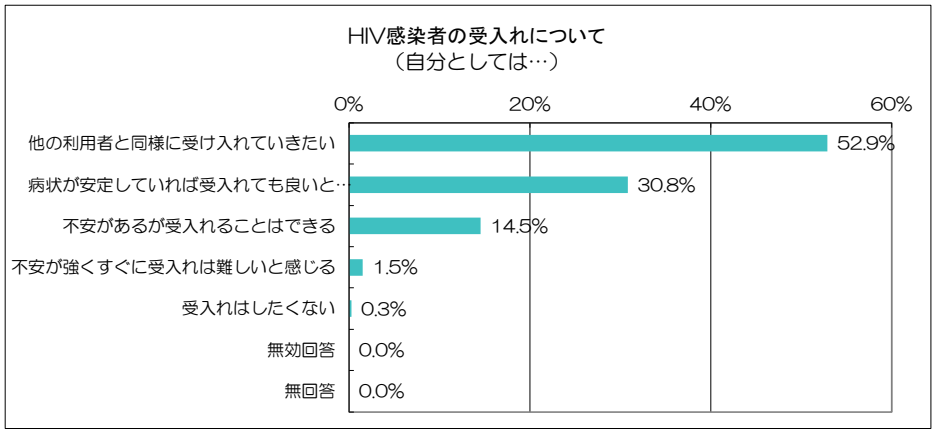

## Q2. 研修の内容について参考になりましたか

| | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 大変参考になった | 271 | 67.9% |
| 参考になった | 123 | 30.8% |
| 参考にならなかった | 0 | 0.0% |
| 無効回答 | 0 | 0.0% |
| 無回答 | 5 | 1.3% |
| 計 | 399 | 100.0% |



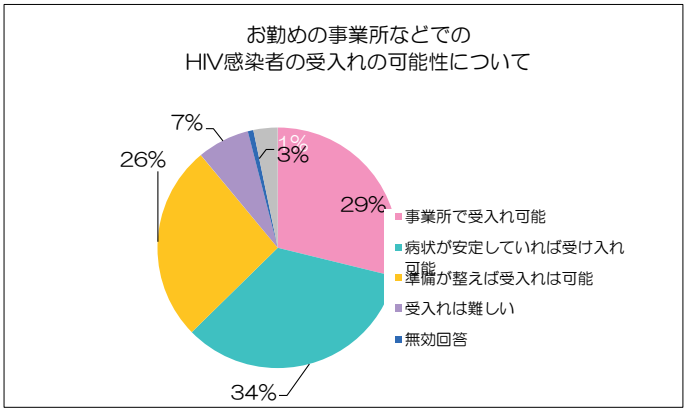
## Q3. 主観でかまいませんのでHIV感染者の受入れについてお尋ねします

| 自分としては… | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 他の利用者と同様に受け入れていきたい | 211 | 52.9% |
| 病状が安定していれば受入れても良いと思う | 123 | 30.8% |
| 不安があるが受入れることはできる | 58 | 14.5% |
| 不安が強くすぐに受入れは難しいと感じる | 6 | 1.5% |
| 受入れはしたくない | 1 | 0.3% |
| 無効回答 | 0 | 0.0% |
| 無回答 | 0 | 0.0% |
| 計 | 399 | 100.0% |



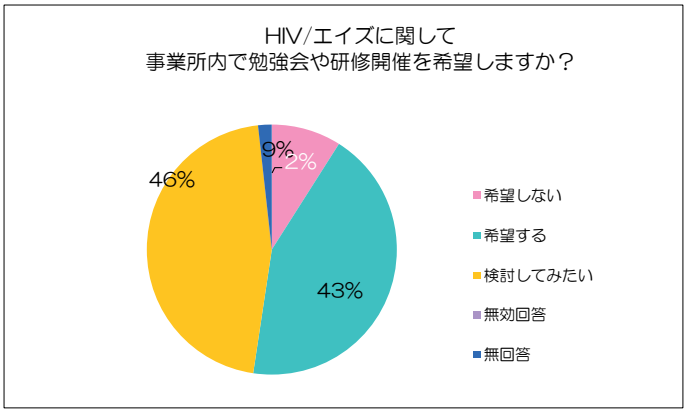

## Q4. お勤めの事業所などでのHIV感染者の受入れの可能性についてお尋ねします

| | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 事業所で受入れ可能 | 115 | 28.8% |
| 病状が安定していれば受け入れ可能 | 135 | 33.8% |
| 準備が整えば受入れは可能 | 105 | 26.3% |
| 受入れは難しい | 28 | 7.0% |
| 無効回答 | 3 | 0.8% |
| 無回答 | 13 | 3.3% |
| 計 | 399 | 100.0% |




## Q5. HIV/エイズに関して事業所内で勉強会や研修開催を希望しますか？

| | 回答数 | % |
|---|---|---|
| 希望しない | 36 | 9.0% |
| 希望する | 173 | 43.4% |
| 検討してみたい | 183 | 45.9% |
| 無効回答 | 0 | 0.0% |
| 無回答 | 7 | 1.8% |
| 計 | 399 | 100.0% |



## 研修の内容について参考になりましたか

| どのような点 | 主なご意見（重複した内容は省いています） |
|---|---|

・HIV陽性者の利用者が，今後入所してくる可能性があることに気付かされた。HIV陽性者に対し，誤認している部分もある為，しっかり学んでいきたい。
・治療開始後6か月で，2～3ヶ月に1度の受診でよくなるくらい，服薬でコントロール可能であることが分かったから。
・感染力が低いことは知らなかった。
・病気自体の問題というより、病気に対する偏見・差別が大きな問題となっていることが理解できた
・HIVの知識がまったくなかったので参考になった
・エイズの正しい対応と、まだ残っている偏見について知ることができた。
・多剤併用療法によってエイズの発症を抑制できるようになり慢性疾患となったこと
・感染の経路、どんな病気なのかが分かった
・日常生活では感染することはないこと
・HIVについて間違った知識が自分にあった
・群馬の最新情報や薬に関する情報が得られた
・正しい知識を持って確実な服薬をすることが重要
・自分の知識が昔のままで「怖い」「どうすればいい・・・」でした。近い将来入居されるかもしれないので正しい知識を勉強できて良かったです。
・1980年代は薬が開発されずにネガティブな考え方が根強く残っていたが、現在は薬も開発されHIVは性行為以外の日常生活ではまず感染しないことが参考になった
・見えないものへの恐怖感・差別感。今後大きな可能性で1ケースの受け入れがあるかもしれないことへの今回の研修の意義
・小さい頃のテレビで観たエイズの印象と違ったから
・HIV陽性者の受入れを検討していたので安心できた　何人かの職員と聞くことが出来たことが良かった
・この研修でHIV/AIDSについて正しい知識を得られて、怖くない病気だと理解できたが全職員が理解できるか分からない

## HIV感染者の受入れについて

| 受入れが難しいと感じる理由 | 主なご意見（重複した内容は省いています） |
|---|---|

・事業所で方針が決まっていない。
・色々な考えのスタッフがいるため。
・受け入れ前に利用者の正しい情報がくるのかどうかの不安。
・頭では分かっているが他利用やその家族からの不安がぬぐえない。
・スタッフへの教育が不十分だと見切り発車になってしまう。
・症状が悪化した場合に検査ができないから。
・技術的には受け入れは難しくないと思うが職員が納得できるか心配。
・トップの考え方次第　厄介なケースは受けないと思う

## お勤めの事業所等でのHIV感染者の受入れの可能性について

| どのような準備が必要でしょうか | 主なご意見（重複した内容は省いています） |
|---|---|

・スタンダードプリコーションの実施
・職員のメンタル面の配慮
・偏見をなくすこと。
・専門機関との連携
・アクシデントが起きたときの対応マニュアルの作成
・感染予防の物理的な整備
・職員教育
・当事者の方に語ってもらったがとても良かった　出来れば当事者の方との交流

| 事業所の受入れが難しい理由 | 主なご意見（重複した内容は省いています） |
|---|---|

・DIV、処置、転倒、自動・多動、接触事故などにより流血は日常茶飯事であるため
・本人の受け入れは大丈夫だとは思うが、家族のメンタルなどの問題の絡みでは現状対応出来ないと思う。
・他の医療機関との連携も難しいと思う

## 感想・ご意見があれば自由にご記入ください

| 感想・ご意見 | 主なご意見（重複した内容は省いています） |
|---|---|

・HIV・エイズに対する偏見・差別が大きな問題であり、受け入れを難しくしていることが学べてとても良かった。